

読書

県図書館が所蔵している「郷土資料」の中には、書店では手に入れることのできない「自費出版物」も数多い。前回取り上げた歌集や句集などのほかにも、自分史や地域誌、随筆、戦争体験記など多

県図書館に行こう

こんな情報^①が待っている

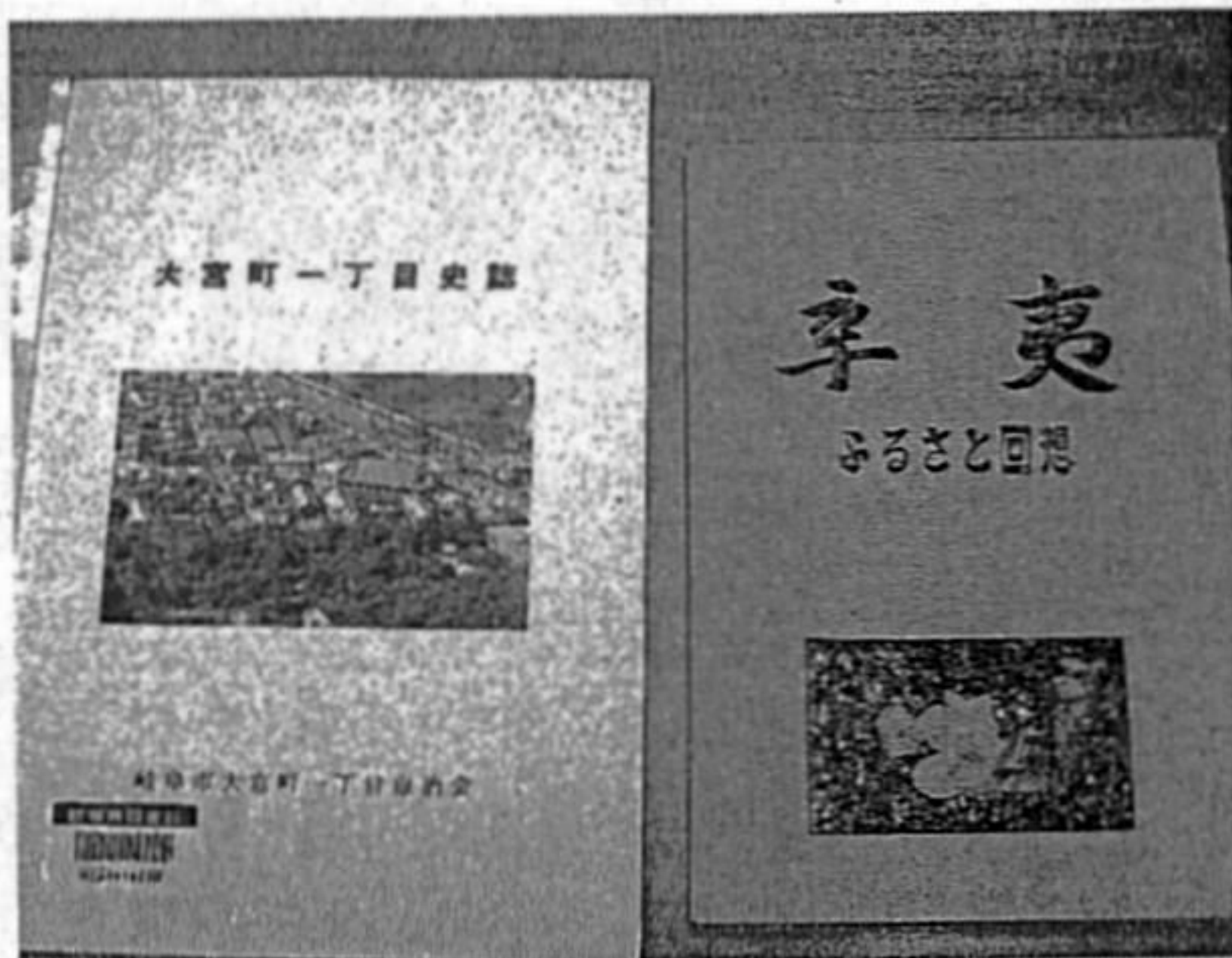
種多様な出版物がある。それらは多くの場合、例えば私たちにとってとても身近な親せきの人やご近所の方、あるいは同級生などによって自費出版されている。

商業出版物にはない、生活に密着した話題や素材など身近な語り部のような趣きがある。しかも時間をかけ、愛情をかけて作られた労作が多い。いわば郷土に関する貴重な情報の宝庫といえる。

例えば、長良橋の廃材を利用して再建された金華山の岐阜城天守閣（一九一〇年）や三重塔（一七七年）について、地元自治会が出した『大宮町一丁自史誌』には、ほかで

身近な語り部、労作多く

郷土の自費出版物



自費出版物は、郷土にかかわる貴重な情報の宝庫

は見られないエピソードがたくさん載っている。また、六一（昭和三十六）年に完成した御母衣ダムの湖底に沈んだ旧荘川村（現高山市荘川町）

の各集落ごとの家並みは、元住民の方が出版した『辛夷（こぶし）ふるさと回想』によって詳しく知ることができる。最近ではインターネット

により予想以上の情報に出合うことができる。発信元は、自治体、民間業者、個人などさまざまである。しかし、ネット上の情報は、時間の経過とともに変更、消去されることも多い。過去にさかのぼる情報の入手の難しさや、印刷物として刊行されなくなっていく現実の中で、地域の情報をどのように図書館で保存し、利用者に提供するかがこれからの大きな課題となっている。

自費出版物はぜひ県図書館にご寄贈を。郷土資料として大切に保存します。連絡先は郷土担当。電話058(275)5111 内線284。

BOOK REVIEW